

親子クイズ 562

春はあけぼの... の頃です。そこで今回は、春にちなんだ俳句を選んでみました。問題です。次の俳句の季語は何でしょうか？

- ①しほ(お)るゝ(る)は 何かあんずの 花の色 松永 貞徳
②草の戸も 住み替は(わ)る代ぞ 雛の家 松尾 芭蕉
③菜の花や 月は東に 日は西に 与謝 蕪村
④我と来て 遊べや親の ない雀 小林 一茶
⑤昼蛙(かわず) どの畦のどこ 曲ら(ろ)うか 石川 桂郎
⑥ものの種 にぎればいのち ひしめける 日野 草城

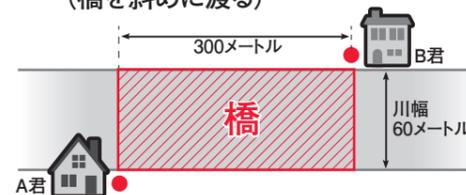
応募締切/3月8日(金)必着
あて先/〒783-8501 南国市大浦甲2301 南国市企画課「親子クイズ係」
賞品/正解者の中から抽選で、5名に図書カード(1,000円)を贈呈

★応募総数/55通 ★正解率/87%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

【第561回解答】

幅300メートルの橋を架ける。(橋を斜めに渡る)



【第561回当選者】

- 須江 愉衣 (大浦乙)
高橋 智乃 (篠原)
川田 ゆな (稲生)
長崎 誠 (緑ヶ丘)
永野 緒里恵 (高知市)

市民からのお便り (親子クイズ)こんな橋かけたら大変!!と思いました。

ふれあいしながこて 94 人権学習シリーズ

無理な追い越しや幅寄せなど、危険な運転行為が問題となっている。一方、自分もひよるとすると迷惑な運転をしたことあるかも...と思いを巡らせる人も結構いると聞く。周りを把握しながら協調性のある運転をするに越したことはないが、心配事がある時、急いでいる時など、模範的に行動できないこともある。

心遣い

譲ってもらった時などありがたう、と伝えたいが、なかなか難しい。顔が見えれば会釈ができるが、暗い道や高速運転中に、感謝を伝えるのは困難である。ライトの点滅などもあるよ。うだが、計器を触るゆとりがないことも多い。人と人との間では会話や会釈、笑顔など様々な感情の伝達方法があるが、車対車では「ありがたう」「ごめんなさい」といった感謝、謝罪を伝える方法が乏しい。そうしたことがもつと伝えられるようになれば車同士のトラブルも大分減るのではないだろうか。車に乗っている時にも人と人のコミュニケーションが自然に取れるような手段が望まれる。道具を使う時に円滑な人間関係を築くことができる事、このことは今私たちに求められているような気がする。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

問い合わせ

人権啓発広報委員会
880・6569

ミニトコライフ

205



収穫体験 やってます!

けんじ 健治さん (前浜)



農業でオクラをメインに育てています。出身は愛知県で、大学進学のため高知県へやってきました。高知大学を選んだ理由は自然環境が豊かだったことでした。30歳まで働いていた勤務先の社長の実家が南国市でコメ農家をしていて、収穫を手伝っているうちに興味が出て、

就農しました。農業を始めたとき、借りた家の前にオクラを作っている方がおり、お手本にしてオクラを作り始めました。農業をやっている喜びを感じるのは、作ったものをおいしいと食べてもらったときです。
全年齢を対象に収穫体験をやっています。収穫体験はSNSで募集していますが、農作物の収穫の関係で開催日の1週間前や3日前に告知するタイミングもあります。申込み不要で直接畑に来てもらうようになっていますが、畑の場所が分かりにくいので、写真で道案内しています。
趣味は音楽と釣りです。音楽ではベイスを弾いています。20代のころにCDを出したこともあります。釣りは海でルアー釣りをしています。出荷の行きと帰りに堤防から釣ることが多いですが、宇和島まで釣りに出かけることもあります。
また、友達が高知へ帰ってきたときは泊まりにきたりします。8人くらい来るときもあります。将来的に、農業の体験宿泊みたいなものを作りたいです。友達を泊めることが経験になっています。
今までバンドで情報発信を、サラリーマンで営業をすることを経験してきたので、その経験を活かし、おいしい野菜を作る分野というより、農業を知ってもらおう窓口になればと思います。一般の人たちを体験などでつなげていきたいです。

なんこく歴史散歩 第73回

もうすぐ、平成から次の元号へと変わる時代の節目がやってきます。元号という、時代の大きな節目となつた大政奉還が行われた慶応3(1867)年から翌年の明治維新の慶応4年まで、高知県のみで「天晴」という元号が使用されていたことが分かる資料が残されています。

天晴年号は、県下で12例しか確認されていない謎の多い私年号です。そのうちの1例は領石地区で発見されています。「領石の天晴年号資料」は、領石地区の領石天満宮から発見された棟札と参道の石灯籠の2点に「天晴」の元号が刻まれており、平成28年に南国市の有形文化財に指定されました。

棟札は領石天満宮境内の小祠から発見されたもので、もともとは領石字笹原にあったと思われる弁財天宮のものですが、棟札に天晴年号を記した例は他になく、県下で唯一の資料です。この棟札から9月17日の時点で天晴への改元が信じられていたことが分かります。

石灯籠は、領石天満宮の参道にあります。天晴年号を刻した石造物は県下で8箇所10例が確認されています。

土佐独自の私年号 天晴年号資料

す。そのうち石灯籠は6箇所8例ですが、領石の事例以外は常夜灯として建立されたもので、金比羅石灯籠としては唯一の資料です。石灯籠は、製作に時間がかかるため、改元を予見して建立されたものと分かります。
これらが領石地域のものとして作られた資料に記されていることから、地域で「天晴」年号が使われていたことも示しています。
こうした史料から、幕末維新という急激な時代の流れの中で明るく生きようとした土佐人のユーモアが感じられるのではないのでしょうか。



石灯籠(領石)



問い合わせ
生涯学習課文化財係
802・6062